

# 卸電力市場の状況について

平成30年4月27日(金)



電力・ガス取引監視等委員会  
Electricity and Gas Market Surveillance Commission

# 目次

## 1. 旧一般電気事業者による自主的取組の概要

## 2. 卸電力市場の状況

(参考1) 小売市場における競争の状況

(参考2) 市場監視の取組

# 1 . 旧一般電気事業者による自主的取組

- 旧一般電気事業者は、卸市場の活性化に向けて、2012年に一般電気事業者9社（沖縄電力を除く）は、自主的取組として、卸電力取引所で余剰電力の売り入札を行うこと、電源開発株式会社と契約している電源の切出しを行うこと等を表明。
- 今年度から、既存の電力会社の社内取引の一部を卸電力取引所経由で行うグロス・ビディングも開始。

## 主な自主的取組の内容

### 余剰電力の全量 市場供出

- 予備力や入札制約を除いた余力の全量を、原則、限界費用ベースで卸電力取引所へ投入（2013年～）

### グロス・ビディング

- 旧一般電気事業者がこれまで、発電事業・小売事業間の内部取引として行っていた電力売買取引を、取引所経由で実施（2017年～）

### 電発電源の切出し

- 旧一般電気事業者が長期相対契約を結んでいる電源開発との契約を見直し、市場に切出し（順次）

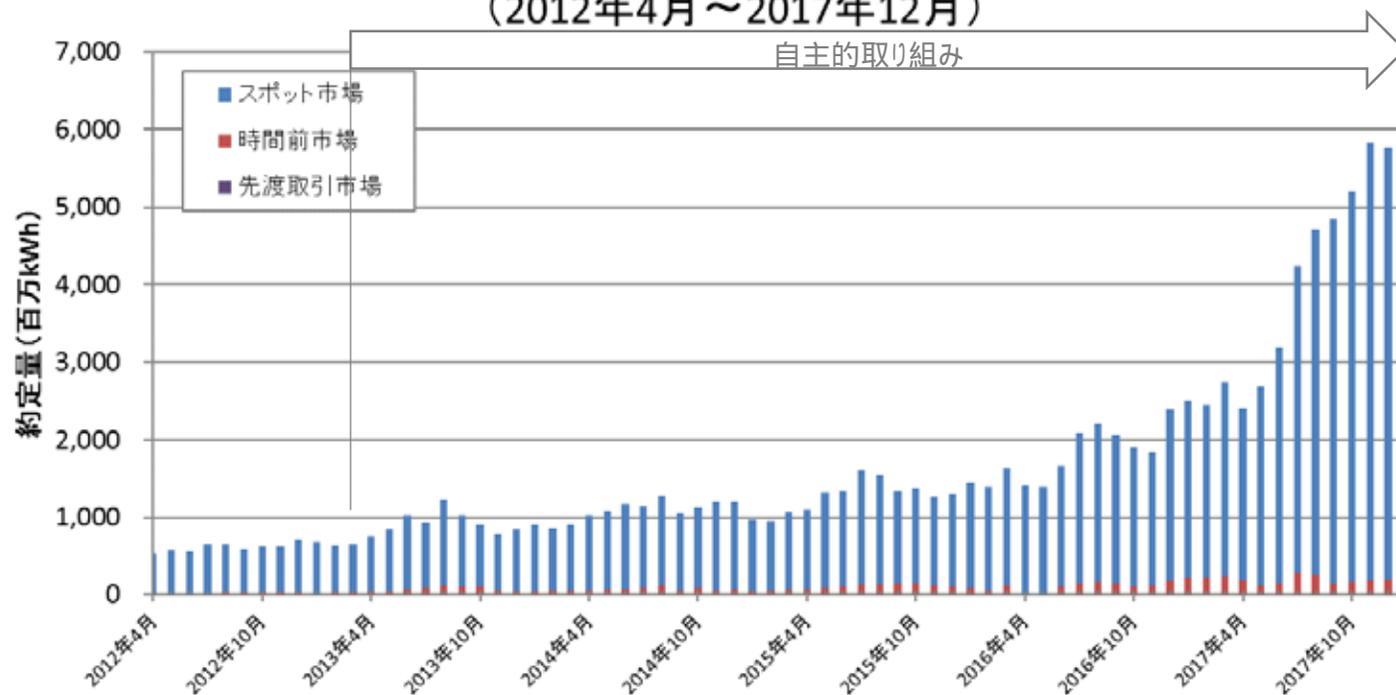
### 常時バックアップ

- 旧一般電気事業者は、新規参入者に対し、新規獲得需要の一定割合について、相対供給を行う（2010年～）

## 2.卸電力市場の状況 約定量の推移

- 2012年度から2016年度にかけての卸電力取引所における約定量の年平均増加率は、34.3%。
- 2017年10月～12月の約定量合計は、前年度同時期対比で2.9倍。

約定量の推移  
(2012年4月～2017年12月)

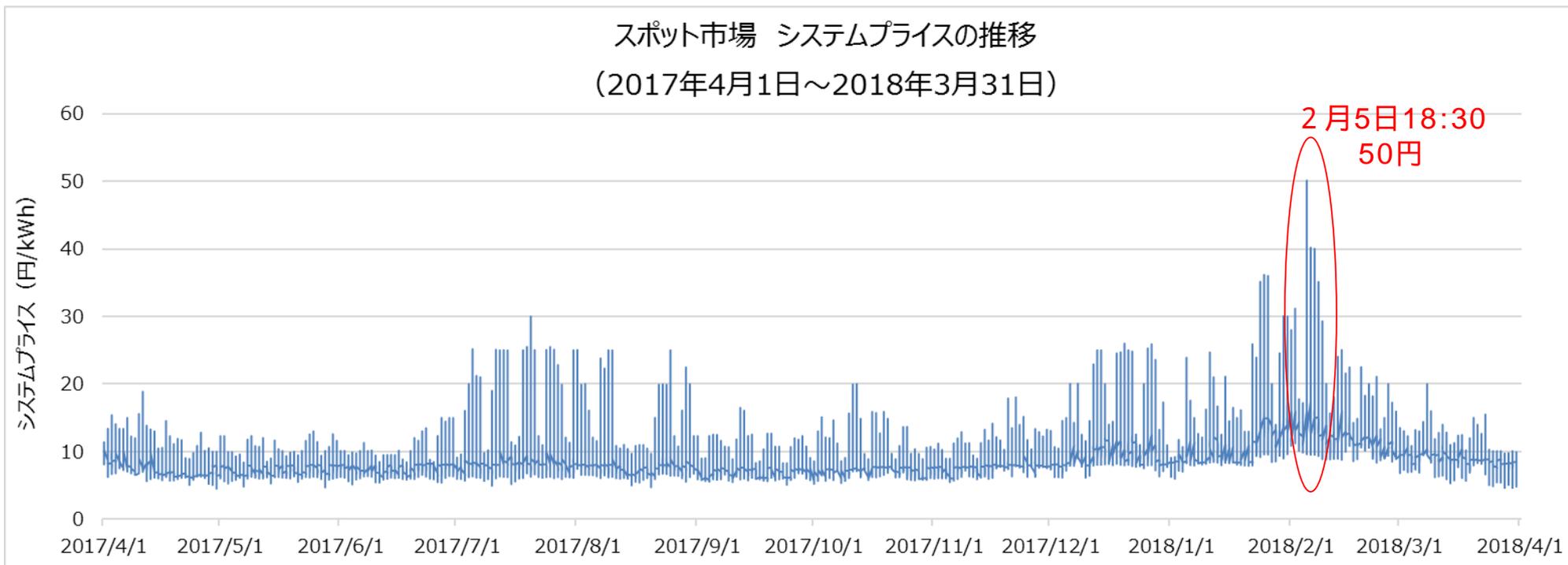


### 主要データ

約定量合計	年平均増加率 (2012年度 2016年度)
	34.3 %
スポット市場約定量	年平均増加率 (2012年度 2016年度)
	33.6 %
時間前市場約定量	年平均増加率 (2012年度 2016年度)
	60.9 %
先渡取引市場約定量	年平均増加率 (2012年度 2016年度)
	-9.8 %

## 2.卸電力市場の状況 価格の推移

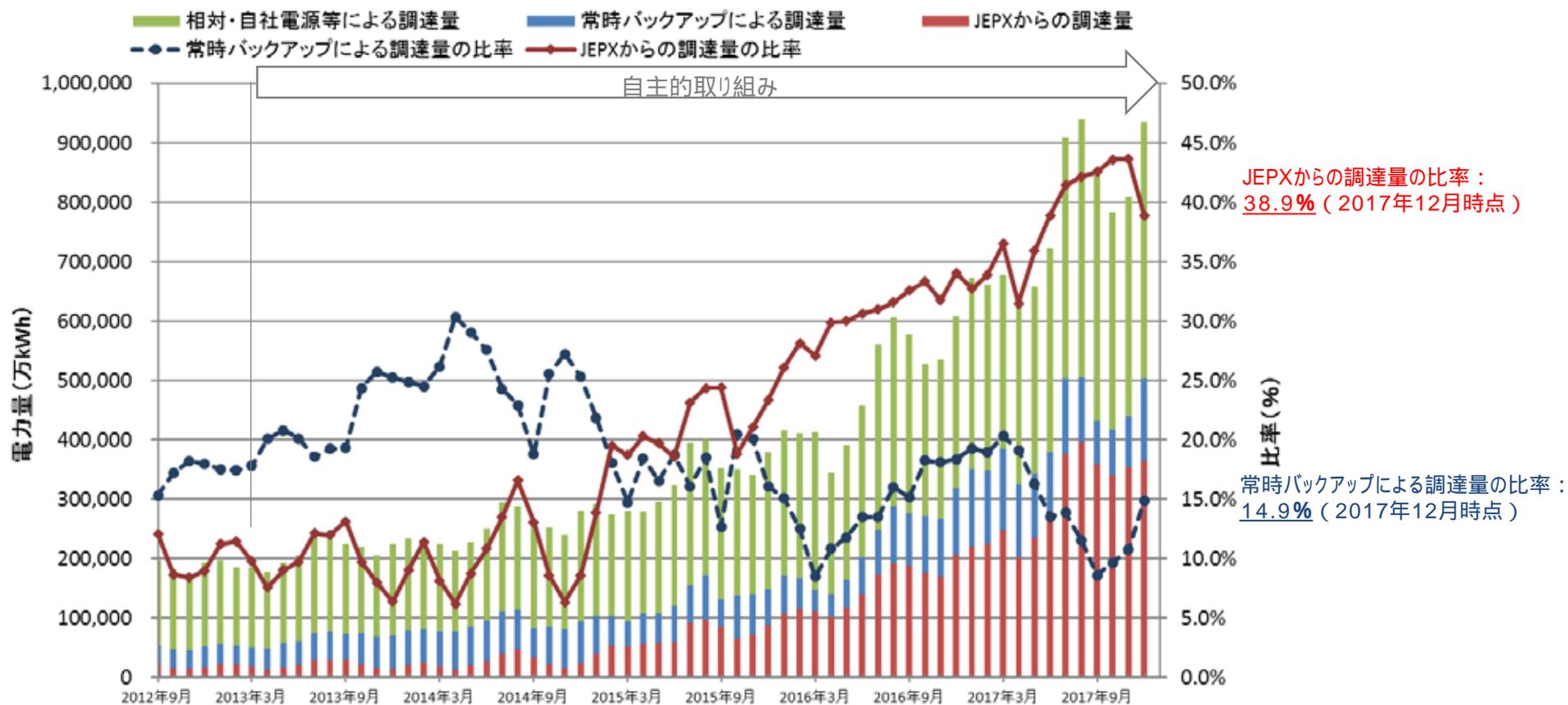
- 1 約定価格は基本的には安定しているものの、高需要期等においては、上昇することがある。



# (参考1) 小売市場における競争状況 新電力の電力調達の状況

- 1 新電力の電力調達状況を見ると、2017年12月時点において、JEPXからの調達量の比率は38.9%、常時バックアップによる調達量の比率は14.9%となっている。

新電力の電力調達の状況  
(2012年9月～2017年12月)



## (参考2) 市場監視の取組

- 1 卸電力市場の監視のため、市場における電力の価格や量の確認のみならず、気温の変化、実際の発電所の稼働状況、燃料調達の状況等、電力に関連する情報を収集した上で、分析・検証を行っている。

### 例1 (東日本エリア)

#### <問題意識>

- 平成29年7月頃、卸電力市場の価格が高騰する一方、相当量の余剰電力が発生 (通常は不足気味に推移することが想定される)。
- 取引所価格の高騰と余剰電力量に相関関係が見られる場合には、スポット市場へ電力を供出しないことと取引所価格を高騰させ、余剰電力で利益を得ることを目的とした行為が存在する可能性がある。

#### <分析内容>

- 卸電力市場における売入札量が減少した要因として以下について分析を実施。
  - 急激な天候予測の変化 (前々日からの気温上昇等)
  - 旧一般電気事業者等による出し惜しみ
  - 停止発電設備の増加 (計画外停止)

### 例2 (西日本エリア)

#### <問題意識>

- 西日本のエリアプライスは、2017年11月中旬以降、前年同時期と比べ高値で推移。

#### <分析内容>

- 西日本エリアの価格が上昇した要因として以下の分析を実施。
  - 気温の変化による西日本エリアの需要増加
  - 燃料制約 (石油・LNG等の燃料不足による発電抑制) の影響の程度
  - ブロック入札による約定機会の減少 等